

文化審議会著作権分科会・基本問題小委員会
平成21年(2009年)10月20日

著作権制度の沿革とデジタル・ネットワーク社会が著作権制度に与える影響

新潟大学名誉教授・弁護士
斉藤 博

1. 著作権制度の軸足

著作権の保護と著作物利用者の利益 「著作権者」対「利用者」

① 著作権者 ⇨ 著作権の譲渡 ⇨ 著作権者＝利用者

著作権の保護強化は利用者の保護強化

著作権譲渡の対価と未知の利用

⇨ 著作権者に生じた利益の一部に著作権者が関与できる筋道

著作権の一部(録音権、放送権等)譲渡

② 著作権者 ⇨ 著作物の利用許諾 ⇨ 利用者

著作権は著作権者の手元に保持

著作権の保護強化は著作権者の保護強化

複製、送信等の個々の利用の対価

③ 著作権の制限 ⇨ 利用

教育、弱者保護等を目的とした利用の確保

著作権制度の軸足をどこに置くか。

t—+----->

著作権者(創作者)

[大陸法] Continental approach

t—+----->

著作権者

[英米法] Anglo-American approach

精神的創作作業 ⇨ 著作物＝人格の発露：人格価値 ⇨ 著作者人格権(18条以下)

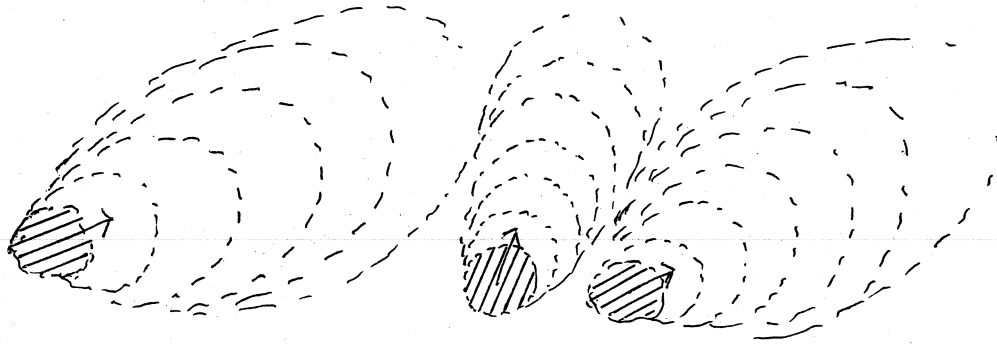
⇨ 人格的利益の保護(60条)

[⇨ 文化財の保護]

著作権法の文化的側面

2. 記録媒体・送信媒体の多様化・大容量化と情報の量の不均衡

媒体に入れ込むべき情報(著作物)をつねに探し求める。つねに空腹状態



3. 「利用者」の拡散

玄人と素人の混在

玄人 = 利用者(著21条以下)、複製物の製作・頒布者、公衆送信者等(B)

素人 = 使用者(読者、鑑賞者、最終消費者)(C)

B ⇔ C ⇔ B ⇔ C ⇔ ...

法命題(条文)の平易化・簡素化

通常の記事化(カッコの多様を抑える。)

「著作権の内容」を限定列挙するか、例示するか

権利制限規定の平易化

「私的録音録画補償金に係る特定機器」「固定ヘッド技術を用いた磁気的方法により、32キロヘルツ、44.1キロヘルツ又は48キロヘルツの標本化周波数でアナログデジタル変換が行われた音を幅が3.78ミリメートルの磁気テープに固定する機能を有する機器」(施行令1条1項2号)(制度導入時は必要、今はどうか? 難解)

技術の汎用化

利用許諾の電子化

技術的手段, 権利管理情報の活用(1996年のWIP0著作権条約11条, 12条)

技術的手段 ⇔ コピープロテクション(利用を抑える) ⇔ 電子許諾(利用を促す)

権利管理情報 ⇔ 利用の態様に応じた利用の条件等

User-friendly Business Model の構築